

美作国ゆかりの歴史小話

日清貿易研究所へ

(1)

文化史研究家 村上節子

上海に日清貿易研究所を設立して優秀な人材を育てようと、荒尾は生徒募集のために日本全国を遊説してまわった。1889(明治22)年に彼は関谷巒へもやって来た。

平(こうもといそへい、大庭郡河内村出身)である。翌90年河本は関谷巒の全科を終えて卒業すると、巒長西薇山の推薦状をもって日清貿易研究所へ入所する。河本の親友福原林平(ふくはらりんぺい、東北条郡加茂村出身)は、荒尾の来関時すでに卒業していたが、彼もまた人を魅了する荒尾の人間性と中国の将来性に期待をかけ、日清貿易研究所へ入所する。荒尾は上海の研究所とともに、吟香の資金援助で東京芝区の明舟町に日清貿易商會を開設し、そこを事務所兼

彼の語る西力東漸の世界情勢と、四方を海に囲まれた日本こそ、外国貿易によって富国になり得る条件を備えている、自分と(荒尾と)ともに、富を作りだそうではないかとの講演は、関谷の生徒たちを熱っぽい興奮の渦に巻き込んだ。この時胸中のはやる思いを抑えながら、静かに聞き入っていたのが河本磯

住居とした。その際鍋釜や必要なあらゆる物を持ってきて世話したのは、吟香の妻の勝子だった。そう証言する白岩龍平(しらいわりゆうへい、吉野郡宮本村出身)は、河本・福原と同じく作州出身で、彼らとともに日清貿易研究所で学んだ。彼は関谷巒卒ではないが、当時資金集めと雑務に追われる荒尾を補佐していた。荒尾の門人として書生的役割を果たし(中村義『アジア主義的実業家の系譜』、荒尾と吟香との密接な関係を白岩はそばで見知っていた。後に彼は西薇山の三女西艶子

(にしつやこ)と結婚する。日中友好の種をまいた吟香を理解しようとするとき忘れてならないのは、経世済民(世を良く治め、民を助ける)の精神に貫かれた彼のやさしさである。それが訓盲院の設立や、上海に多い感染症の治療法の研究、アヘンの病毒にあえぐ清人のために、病院をつくるという活動となっており、また自分と同じ志をもつ慈善事業家を親身に助けた。

先日岸田吟香を語り継ぐ会の方から、貴重な史料を読ませていただいた。それは丹波国水上郡竹田村(現兵庫県丹波市水上町)の豪農土倉家に、1839(天保10)年に生まれた児童福祉の先駆者大野唯四郎(おおのただしゅう)、1839(天保10)年に生まれ、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

この誠実な人柄の吟香の肉声を、日清貿易研究所生の多くは聞いているのである。研究所の開設にあたり、吟香は入所前の生徒に心得として、分かりやすい演説を行った。それが福原林平のメモとして関谷巒の生徒に伝わっている。

の生涯をまとめた冊子『大野唯四郎』(市島町史実研究会発行)である。

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

精神面での民生救恤(ききゅうじゆつ)捨て子・墮胎をする貧者を助ける)を依頼した。そして大坂島ノ内に孤児の收容所(堺の社会福祉法人愛育社の前身をつくったのだが、この頃吟香は盲人教育の必要性を痛感する英人や日本のクリスチャンらと、訓盲院の設立を目的とする楽善会をつくった。

ヘップバーンが翻訳しているヨハネ伝の一部を出版で、アメリカで出版し、費用はアメリカの教会が負担することを申し合わせた。しかし楽善会関係者には外国人や、クリスチヤンが多く、訓盲院の設立許可はなかなかおりになかった。1876(明治9)年にやっと認可され、吟香は公的手続きの効果的なノウハウを知っていた。こ

の年大野は家財道具の大せり市を行い、その金を丹波・東京・大坂・京都・長崎の孤児收容所へ送っているのだが、後に彼は私財を蕩尽(とうじん)し、一家離散のうえ、悲劇的な死を遂げるのである。吟香ら楽善会には幸い、東京日日新聞紙上に広告を載せ、寄付金を募集する手段があった。楽善会が出した広告を大野は読んだに違いない。1878(明治11)年彼は楽善会を視察、吟香を訪ねてきた。2人は何度も打ち合せをし、吟香は大野の施設を公認とする方法を指導し、後援してくれそうな人々も紹介した。

大野の地元の育見所を「愛育堂」と命名し、その揮毫(きごう)を長三州(ちようざんしゅう)、当時宮内省御用

掛で明治書家の第一人者)に依頼することにした。大野の募金の帳面を取り調べ、それに「愛育堂滋恵金人名録」と印し、必要な書類も与えた。1879(明治12)年丹波の下竹田の育見院が、翌13年には大坂島ノ内の育見院が公認となったとき、大野の吟香への感謝は、例えようもなかったであらう。

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、

大野のいばらにみちた福祉事業の開拓が、吟香の懇切な指導によって公的なものへと引き上げられた経緯が分かる。大野は成人後、現丹波市市島町の、南北朝から続いた豪農大野家へ養子に入り、貧しさ故の捨て子・墮胎・餓死を防止しようとした。都市には浮浪児が群がり、非情な捨て子や墮胎は止まる所がなく、孤児や借金のかねない極貧の人々へ救いの手を差し伸べた。大野は極貧者の子を引き取って養育に当たり、京阪神の知名の士を訪ねて孤児の状況調査とその救助策を打ち合わせた。東本願寺・清水寺・知恩院・その他大小の寺を訪ねては、